

## 日本人なら知っておきたい公的年金のイロハ

日本の公的年金制度は、日本に住んでいる20歳以上60歳未満のすべての人が加入する「国民年金（基礎年金）」と、会社などに勤務している人が加入する「厚生年金」の2階建てになっています。この公的年金は、現役世代の保険料負担で高齢者世代を支えるという考え方を基本としています。そのため、年金給付を行うために必要な資金を、事前にすべて積み立てておくわけではありません。

現在の日本では少子高齢化が急激に進んでおり、現役世代の保険料だけで年金給付をまかなうとなると、保険料の引き上げまたは将来の年金給付水準の低下が避けられない状態になっています。そこで公的年金制度では、一定の積立金を保有し、その運用収入や元本を活用する財政計画を立てています。その積立金の管理・運用は年金積立金管理運用独立行政法人（通称：GPIF）によって行われています。

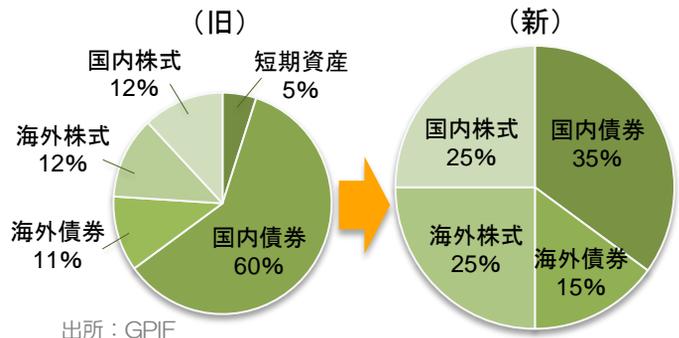
## 転換期を迎えたGPIFの運用 ～更なる運用利回りの確保

このような時代の流れを受け、GPIFは中期計画の見直しに伴い、2014年10月基本ポートフォリオの変更を実施しました。資産配分の変更に加え、投資対象先を増やす等、運用の多様化を図っています。

## &lt;主な変更内容&gt;

- ①株式（国内・海外）比率引き上げ
- ②外貨建資産比率引き上げ
- ③国内債券比率引き下げ
- ④株式、債券以外のオルタナティブ資産の活用

## 資産配分の変更の内容

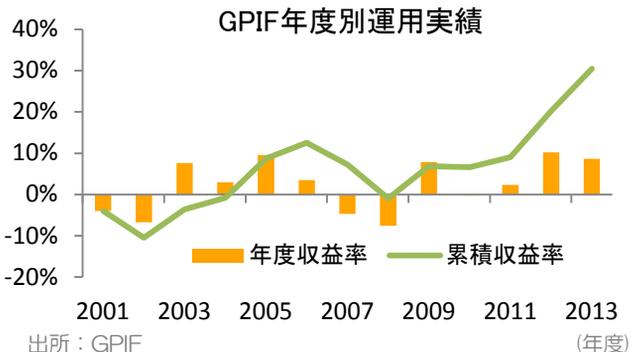


## GPIF運用の特徴 ～長期的な運用スタンスと分散投資

GPIFに代表される年金型運用は長期的な成長と効率的な運用を図るため分散投資を実践しています。

過去のGPIFの運用実績の中で単年度でマイナスになることもありましたが、長期的には評価すべき実績をあげています。

将来の生活に大きな影響を与えるGPIFの動向には、今後も注目です。



本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、信頼できると思われる資料に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された見解は情報提供を目的とするものであり、いかなる投資助言を提供するものではなく、また個別銘柄の購入・売却・保有等を推奨するものでもありません。記載された見解は資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、あくまで例示をもって理解を深めていただくためのものであり、当該個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等を推奨あるいは勧誘するものでもありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(I)複写、写真複写、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、あるいは(II)再配布することを禁じます。

<審査番号: 4018-TMPL-03/2015-16372> © 2015 Goldman Sachs. All rights reserved.